

住民主体による廃校から高齢者施設への転用プロセスに関する研究 その1

- 地域の概要と離島の現状について -

廃校転用 住民主体 NPO
高齢者施設 離島

正会員○吉原 昌也 *1
同 御手洗政和 *1
同 鈴木 健二 *2
同 友清 貴和 *3

1-1 研究の背景と目的

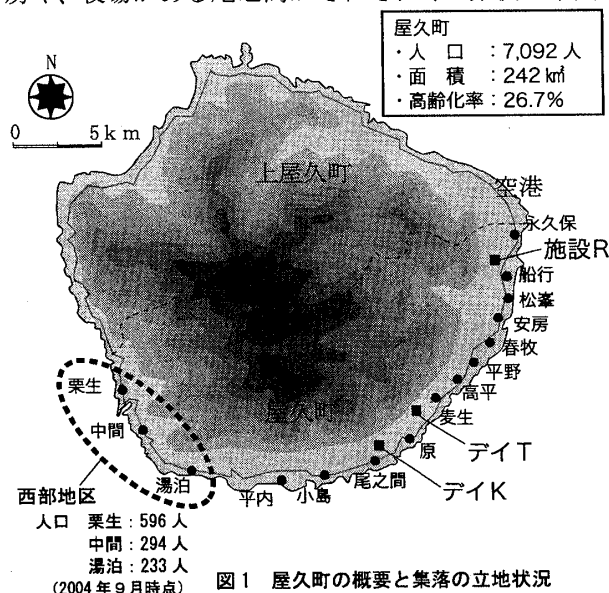
従来、我が国では国や自治体を中心に多くの施設整備が進められてきたが、近年では各地域や住民の創意工夫による「共」の取り組みが注目を集めるようになり、構造改革特区の実施(2002年9月)や地域再生本部の発足(2003年10月)等、地域の自立に向けた活動を見出そうとする動きが社会的にも定着しつつある。

そこで本研究では、住民主体により廃校から高齢者施設への転用が行なわれた、鹿児島県屋久町西部地区の事例を対象とする。住民が地域における様々な問題に対してどのような創意工夫を行い、乗り越えていったのかを明らかにすることで、住民を主体とした活動に求められる要件について探ることを目的とする。

本稿では、このような取り組みが行われるに至った背景について考察を行い、次稿では廃校から高齢者施設への転用プロセスについて考察を行う。

1-2 対象事例の概要と調査の方法

鹿児島県屋久町は屋久島の南側半分を占める。屋久島の地図と屋久町の概要を図1に示す。島の中央は宮之浦岳を始めとする山間部と世界遺産にも指定された森林部で占められており、各集落は外周部に沿って立ち並んでいる。鹿児島市へ向かう高速船が発着する安房や、役場がある尾之間がそれぞれ町の東側・中央に



位置しているのに対し、栗生・中間・湯泊の3集落で構成される西部地区は町の西側にあり、非常に奥まった場所に位置している。高齢化が著しく進行している西部地区では(図2)、栗生集落を中心とした地域住民によりNPO法人「サポート&ケア屋久島」(以下NPO屋久島と略)が2003年12月に設立され(表2)、廃校を自分達の手で改修することにより、2004年4月からミニデイサービスセンター「ゆっくりかん」(以下ゆっくりかんと略)の運営が開始されている。

そこでまず離島や屋久町が抱える問題を明らかにするために文献調査を行なった。次に、2004年3月に予備調査として現地を訪れて廃校校舎の改修工事に参加し、2004年6月・9月・11月に訪問調査として現地を訪れ、改修工事の経緯やNPOの活動内容についてのヒアリングを工事参加者・NPO会員に対して行なった。

2-1 対象地域が抱える問題

屋久町西部地区が置かれている状況を整理するために、まず、全国と鹿児島県内離島の介護保険事業所数を人口当たりと面積当たりで比較したもの(2003年4月時点)を図3・4に示す。図から離島の介護保険事業所数は施設・在宅の両サービス共に全国平均と比べると、人口当たりの数値は大きいものの、面積当たりの数値は逆

表1 屋久町内の介護保険事業所概要

施設名	施設の種類	法人種別	定員
施設R	特別養護老人ホーム	社会福祉法人	50名
ティT	通所介護施設	営利法人	35名
ティK	通所介護施設	社会福祉法人	30名

表2 NPO 屋久島の概要

設立: 2003年12月
会員数: 正会員22名, 準会員64名
目的: 高齢者・障害者に対する 住み慣れた場所で生活する ための介護・福祉サービス

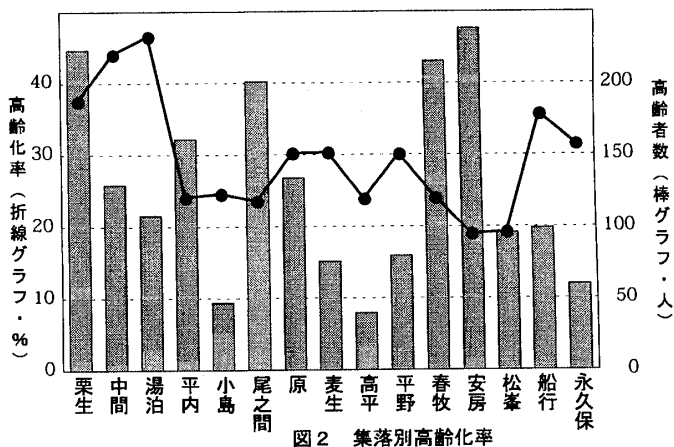


図1 屋久町の概要と集落の立地状況

図2 集落別高齢化率

A study on the process of conversion from school which lost function to institution for elderly-people by the residents -part1-

YOSHIHARA Masaya, MITARAI Masakazu, SUZUKI Kenji, TOMOKIYO Takakazu

に小さくなっている。つまり離島では、全国平均や本土と比べると介護保険事業所が住民が住んでいる地域の近くに無いと言うことが分かる。

次に各島の特徴を比較するために、鹿児島県離島8島における人口密度と面積を表したものを図5に示す。縦軸が各島の人口密度、横軸が面積を表している。図中に示すように、8島の人口密度と面積の平均値で各島を大きく4つのグループに分類すると、鹿児島県の他の離島と比べて、屋久島は唯一面積が大きくかつ人口密度が極端に低い島であることが分かる。同じ離島であっても、面積が小さくかつ人口密度が高い与論島や喜界島等と比較すると、サービスの供給という観点からは非常に不利な状況にあることが推察される。そこには地形的要因が大きく影響していると思われる。屋久島は島の形状として中央に九州最高峰である宮之浦岳が聳えているため他の島と比較すると土地の起伏が非常に激しく(図6)、集落や交通は外周部のみに分散せざるをえない状況となっている(図1)。加えて、町内の介護保

険事業所は3ヶ所のみで(表1)、その立地は集落によって大きな偏りが見られており、西部地区では高齢化が著しいにも関わらず立地条件がもたらす「距離」という問題が一層大きな制約となっていることがわかる。

3. まとめ

以上、屋久町栗生集落を取り巻く状況について考察・分析を行った結果、以下の点が明らかになった。

まず、鹿児島県離島の介護保険事業所数を全国平均と鹿児島県本土と比較した結果、人口当りの事業所数では全国平均・県本土を上回る数値となっているものの、面積当りの事業所数では下回る数値となっている事が明らかになった。このことから、住んでいる地域の近くに事業所が立地していないということが離島部に共通する大きな問題であると考えられる。

次に、鹿児島県離島8島の人口密度と面積を比較した結果、本研究の対象地である屋久島は他の離島とは異なり、面積が大きくかつ人口密度が非常に低い島であることが明らかになった。その原因としては島の地形や集落の立地などが大きな影響を与えていると思われるものの、鹿児島県離島8島の中でも屋久島が離島特有の問題が顕著に表れていると思われる。

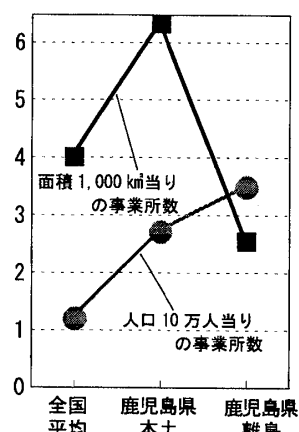
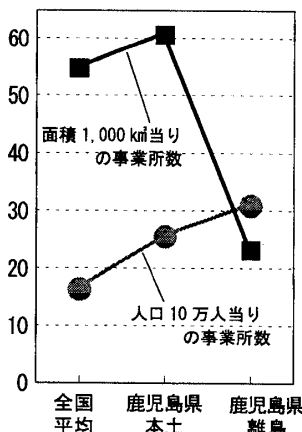


図3 介護保険事業所数の比較 (在宅サービス)

図4 介護保険事業所数の比較 (施設サービス)

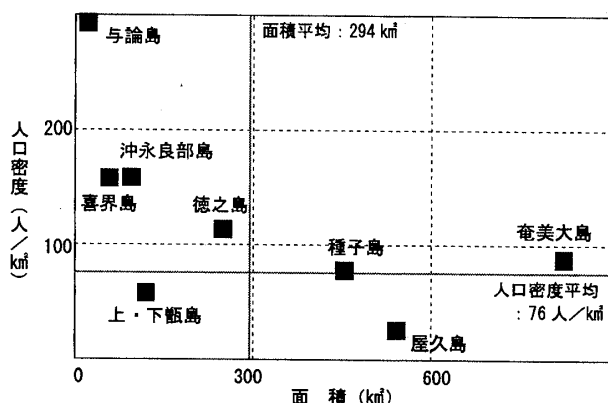


図5 鹿児島県内各離島の面積と人口密度

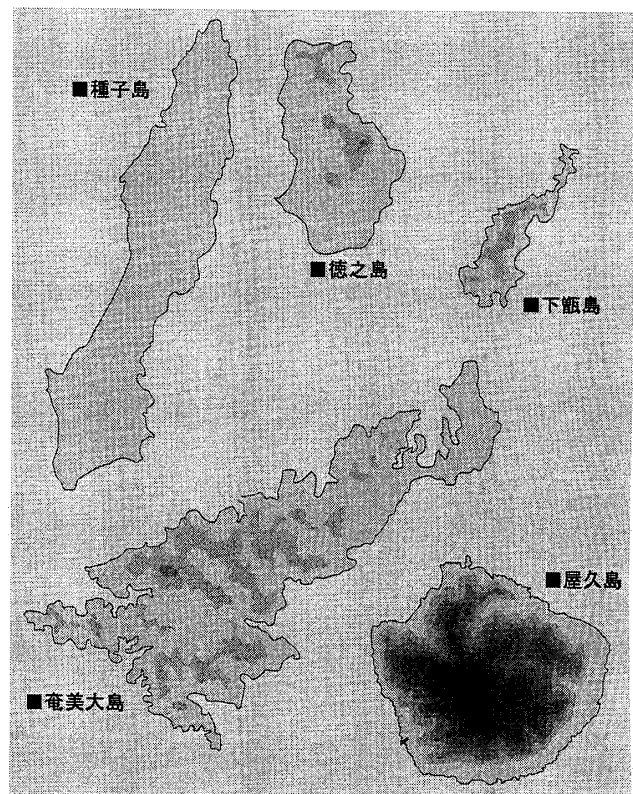


図6 鹿児島県内各離島の地形 (標高 250m 毎に等高線を作成)

*1 鹿児島大学大学院理工学研究科 修士課程
 *2 鹿児島大学工学部建築学科 助手・工博
 *3 鹿児島大学工学部建築学科 教授・工博

Graduate Student, Graduate School, Kagoshima University
 Research Assoc., Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng
 Professor., Faculty of Engineering, Kagoshima University, Dr. Eng